

---

第 197 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2009 年 6 月 9 日(火) 17 時 00 分~18 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 佐野 司 氏 (東京歯科大学歯科放射線学講座・教授)

タイトル: 顎関節症の画像診断

1970 年代後半に顎関節腔造影法により顎関節症の患者において関節円板の異常が高頻度に認められることが判明した。軟組織コントラストに優れ、任意断面の撮像が可能であり、さらに電離放射線被曝および外科的侵襲を伴わない磁気共鳴撮像法(以下、MRI)は、1980 年代前半から顎関節疾患の診断に広く臨床応用されるようになった。顎関節における MRI のもたらした福音は大きく、関節円板および円板後部組織の診断のみならず、joint effusion や下顎頭骨髄の性状の診断も可能となった。しかし、関節円板転位は、無症状者にも約 30%に認められることから、その病的意義に疑問が持たれている。また、変形性関節症は顎関節痛と関連があるとされてきたが、無症状の高齢者に認められていることから、両者の関連については議論がある。本講演では、顎関節症の画像診断法の概要を含め、症状との関連の観点から顎関節症の画像診断について述べたい。

担当:硬組織疾患制御再建学講座 田 口 明